

青野沢川河川災害復旧工事（その1）

2018年7月 工事だより

工期：2014年12月17日 ~
2018年 10月31日

工事進捗状況

工種	進捗率	備考
河川土工	94.5 %	掘削、盛土
護岸工	86.7 %	基礎工、法覆護岸他
排水工	54.0 %	水路、管路、樹他
付属構造物工	77.0 %	階段他
構造物撤去工	100.0 %	無筋コン、鉄筋コン
地盤改良工	100.0 %	地盤改良
樋門・樋管本体工	100.0 %	樋門・樋管 4基
鋼橋上部	96.4 %	鋼単純非合成箱桁橋他
橋梁下部	100.0 %	橋台 2基、場所打ち杭
構造物撤去工	100.0 %	旧橋撤去
仮設工	96.1 %	工事用道路、水替え他

トピックス

本工事の工期が決まりました。ただし、『国道45号線周り』は国道工事が大幅に遅れているため、**本工事では完成できません**。全て完成するまでもう少し時間がかかります。。。

橋という技術

橋を架ける技術は古くから存在し、人類の発展とともに、進歩してきました。壮大で優美な明石海峡大橋は、明石海峡を3,911mまたぎ、世界最長の吊橋（支間長が1,991m）として、現在ギネスブックに登録（1998年）されています。

この世界最長の吊橋の特徴としてあげられるのが、メインケーブルです。高強度のワイヤー36,830本で構成され、つなぎ合わせるとその距離地球7周半分に相当します。直径は約110cmにもあり、約6万トンの荷重が支えられるケーブルとなっています。また、雨や潮風等による錆（さび）防止にと表面をゴムで覆い、常に内部に乾燥した空気を送風する等、世界に誇る先端技術が搭載されています。

このように、昔は自然の木や石を利用していた橋は、現在は鋼やコンクリート等を素材に、耐久性、耐震性に富んだ安全な橋、景観に配慮された橋づくりがなされています。橋の歩みは土木技術の歩みでもあり、橋には日々進歩を遂げてきた技術が結集されているのです。



施工状況



全景写真

右岸川表部は、港橋へ取り付く道路の防護柵工（ガードレール基礎）や張ブロックを施工しています。川ウラ部では、堤脚水路を施工しています。

防護柵工（ガードレール基礎）



基礎砕石敷き均し転圧



均しコンクリート打設



ガードレール基礎据付

張ブロック工（右岸No.4付近）



基礎砕石転圧完了



張りブロック据付



目地モルタル

施工業者にQ&A



三成建設 久保 新一

防護柵（ガードレール）基礎工を担当している三成建設さんに話を聞きました。

Q: 会社は仙台だそうですが、作業員の皆さんは東北出身者が多いのでしょうか？

A: 職員は東北出身者が多く、住居も会社の近くがほとんどです。仕事も東北中心が多いです。

Q: 防護柵工で難しい点や気を付けている点はありますか？

A: 新しく作った堤防の上に防護柵基礎をほぼ隙間ゼロで設置していく箇所があり、大変です。また、基礎ブロックが3点吊り構造となっているため、据付角度の調整にも苦労しています。



右岸No.3+25川ウラ付近

ガードレール基礎据付状況

Q: 三成建設さんは、ベテラン揃いですね。皆さん昔から建設業で働いていたのでしょうか？

A: 昔は農業をやっていたという人もけっこういます。もちろん、建設工事の経験も十分ですので、安心して下さい！

これから夏本番です。体調管理に気を付けて頑張りましょう！

連絡先

事務所 住所：気仙沼市唐桑町出山240-5

電話：0226-31-3201 FAX：0226-31-3510

ホームページ： <https://www.takenaka-doboku.co.jp/aonosawa/index.html>



人と地球の架け橋に
竹中土木